

クライミングを「安全」に拡大したい それが自分の恩返し

井上大助さん

岩場の事故を無くし、近隣の地域にも理解を得て、クライミングの環境を良くしたい。トイレ、騒音、ゴミ、残置ボルトなど、そんなアクセス問題に取り組んでいるJFA（日本フリークライミング協会）の井上大助さんにお話を伺いました。（インタビューと文：張晶子）



◆ どんな子どもでしたか？

一 体育の時間が嫌い。身体が小さく、何をやっても不利でしたし、同じ格好をして同じことをするというのも好きではありませんでした。運動が楽しいと思っただけではありませんでした。本を読むとか、音楽を聴くとかの方が好きでした。クラブは入らず、高校に行ってもそれは変わらず。プールの無い高校を選んだくらいです。当時の九州では体罰も日常茶飯事で、友だちが殴られるのを見るだけで嫌でした。

◆ いつ、どうやってクライミングに出会ったのですか？

一 東京の大学に行って、2年の終わり頃始めたアルバイトが石井スポーツのスキーの部門でした。冬のシーズンが終わったとき、登山の部門もあるよということ、継続したので練習をしながら、倉庫の壁を使ってクライミングの練習をしている先輩や同僚がいました。山も行ったことがないのに、いきなり小川

めて、近隣・地元を理解し、迷惑をかけないよう、にすることが大事です。岩場は地主さんのもので、す。クライミングのイメージを貶めたくないと思っと思っています。

騒音、ゴミ、トイレの始末は勿論ですが、車の駐車の問題も地元とちゃんと話し合わなければならないことです。

岩場の安全面では、古い支点（ビレイポイントのボルト）を撤収して、少なくする（リボルトする）。新しいものは、ハイキングコースの景観を壊さないように光らないタイプのものを使ったりしています。岩場を整備して、守る活動をしています。

◆ プライベートのクライミングは楽しんでますか？

ー ジムウォールでレッスンを持ったり、ライターとして（「PEAKS」など）取材したりと、仕事にしてしまうと、自分のクライミングはなかなか楽しめませんね。岩場へ行っても、ビレイポイントの使い方など他人のことが気になってしかたなくなってしまう。

でも、昨年、福島県の白河市郊外の「聖ヶ岩」の開拓は楽しかったです。白河山岳会の渡辺さんが、この岩場の整備についてご相談の連絡をくださり、いろいろ伺うと、岩質が非常に柔らかいために、ケミカルボルトを使わずにしかかない、ということ、現地に技術指導に赴くことになったのです。

岩は凝灰岩系で、一番高い岩峰は70m以上あり、基本を学ぶには打ってつけの傾斜です。地元白河山岳会のみなさんがアプローチを取り付き地点の整備・清掃をして下さいました。

岩場の下のキャンプ場には、シャワー、近くにはハイキングコースもあり、秋には紅葉も楽しめる、良く整備されたとても快適なと

ころでした。ただ、まだ場所によって放射線量が高く、子どもや若い人にはお薦めし兼ねるのが残念です。

◆ ところで、登山はされますか？

- 一 北アルプスは、屏風岩以外知らなかったのですが、雑誌「PEAKS」の仕事をはじめから、4年ほど前、初めてピークに登る「登山」というものを行いました。初縦走は、カメラを背負っての槍ヶ岳～奥穂高～西穂高の稜線です。翌年は、劔岳の一般ルートです。やはり取材の仕事で、靴の比較の企画のために、前劔から2往復しました。景色は佳いですが、登って下りるだけでは自分にはつまらない。スキーはテレマークスキーをやります。バックカントリーが好きですね。スノーボードは以前からやっていたが、誘われた初めてのスキーは谷川岳の西黒沢でした。これが冬山デビューでもありました。3年目の芝倉沢のスキーで滑落し、以降、雪崩についての勉強をしました。

- ◆ クライミングやバックカントリースキー、縦走登山などの自然との関わりの中、「山」はある、という感覚は、ピークハント型登山から出発した世代には新鮮です。だからこそ、一つ一つの「場（エリア）」としての環境を大切にしようと思えるのではないかと、詰まったウロコを落とさせていただきました。ありがとうございました。